

講話を聞いて、心に残ったこと、  
自分と重ねて考えたことは？

生徒が講師へ宛てた手紙から一部を抜粋しています。

しっかり考え、感謝することが  
大事だと心に残った。

人や菊陽町のために  
何かをしていきたい。

中学校は考える力を養うところ。考える力があれば壁を乗り越えられる。

私もたくさんの人を  
笑顔にできる人になりたい。

「24時間をデザインする」  
今何ができるかを考えたい。



私も人生を  
enjoyしたい！

「自分の夢を仲間に話す。  
後ろではなく、先を見る」  
一つ一つが心に響いた。

自分を変えたいと思った。  
小さなことからチャレンジしたい。

努力しただけ自分に返ってくる。

「学ぶ」ことの面白さを発見したい。

頑張ることを諦めていたけど、  
頑張っていこうと思った。

2年生の平田千恵美さんは「目標達成には努力が必要だと分かった。一つ一つの行動に責任を持ちたい」と決意。みんなに愛されるプロゴルファーになることが夢という川崎燦さんは「今できることを頑張りたい。もっと自分の限界を超えられるよう努力する。あいさつも大切だと分かった」と目を輝かせていました。

求められる「生きる力」  
多様な職業観を学ぶ

菊陽中学校「校内ハローワーク」  
が12月11日、同校で開かれました。  
全校生徒約500人が講師の話を知り、自分の夢や将来を考えました。  
病院や酒屋、飲食店、ホテル、警察、消防、陶芸、茶道、弁護士などさまざまな分野で活躍する32人が講師。講師は今までの道のりや仕事の生きがい、失敗した経験、頑張ってきたこと、中学時代に学ぶべきことなどを話しました。エアポートホテル熊本の出発係・田尻沙織さんは「好きなことは将来きつと役に立つ。向上心を忘れずしっかり考えることが大事」とエール。熊本ヴォルターズの代表取締役・湯之上聡さんは「何事にもプラスな人になろう。人に感謝し、チャレンジする人になっ てほしい」と伝えました。

「社会に貢献できる人に」

実社会の一線で活躍する先輩の話を知り、今の自分を見つめ直し、将来の姿を思い描いてほしいと思い開催しました。今は知識だけでなく、自分で未来を切り開く生きる力が必要です。あいさつやコミュニケーション能力、情報活用能力、人間関係など、社会で生きていくために

必要なことを地域から学ぶことでさらに視野を広げられます。生徒は多様な職業があることを知り、いろんな生き様に触れ、日々の学習が将来どのように役立つのかを学べたと思います。これをきっかけに自分で考えて行動し、社会に貢献できる人になってほしいと願っています。

菊陽中学校 浦田 安之校長

働く働く意味は、  
中学生500人×社会人32人  
働く大人に学ぶ。



菊陽中学校で12月11日に行われた「校内ハローワーク」。生徒は働く大人から何を学び、何を考えたのか、取材しました。